ケインズ理論の　$Y = \frac{1}{1-a} I$　のYの意味について（証明）〔第2版〕

ただしYは所得または総供給、Iは投資、aは消費性向

図は別記

直線U1を U=aY+b とすると、

直線U1と直線 U=Y との交点の座標(y1, u1) は(y1, y1)だから、

y1=a×y1+b：（1－a) y1=b：　$y1 = \frac{b}{1-a}$

直線U1をIだけ上に平行移動させた直線U2は U=aY+ (b+I)

直線U2と直線 U=Y との交点の座標(y2, u2) は(y2, y2)だから、

y2=a×y2+ (b+I)：（1－a) y2=b+I：　$y2 = \frac{b+I}{1-a}$　……(1)

以上により、$y2 - y1 = \frac{b+I}{1-a} - \frac{b}{1-a} = \frac{1}{1-a} I$

（別図の）数値例によれば、

a=0.5, b=6, I =2のとき、$\frac{1}{1-a} I = \frac{1}{1-0.5} \times 2 = 4$　一方、y2－y1=16－12=4

a=0.5, b=6, I' =5のとき、$\frac{1}{1-a} I' = \frac{1}{1-0.5} \times 5 = 10$　一方、y3－y2=22－12=10

すなわち、Y= {1 / (1－a)} I のYは、

I（投資）が、新たに（追加的に）生み出した所得ないし需要。

だから$\triangle Y = \frac{1}{1-a} I$　と書くべきである。

また、(1) から、$y2 = \frac{b+I}{1-a}$　、$y3 = \frac{b+I'}{1-a}$　だから、

正しくはYは、$Y = \frac{b+I}{1-a} = \frac{b}{1-a} + \frac{I}{1-a}$

さらに、$Y' - Y = \frac{b+I'}{1-a} - \frac{b+I}{1-a} = \frac{1}{1-a}(I' - I)$

よって、$\triangle Y = \frac{1}{1-a} \triangle I$　これが通例の投資乗数の式。